

研究主題

「確かな学力と豊かな心を持つ生徒の育成」  
～ 基礎学力定着を通して ～（２年次）

鹿児島市立和田中学校

1 はじめに

子どもたちは、情報化、国際化、価値観の多様化、高齢化・少子化など、社会の急激な変化の中、この変化に主体的に対応し、たくましく、創造的に生きていくことが求められている。しかし、学校を取り巻く現状は、不登校生徒の増加や、生徒指導に関わる多くの課題、家庭・地域の教育力低下等、複雑な問題を抱え、特に「心の荒廃」が問題となってきた。このような中、プロジェクト型社会の到来と言われる21世紀に生きて働く諸能力を身に付けさせ、精神面でのたくましさを持ち、心豊かに生きる生徒の育成が今まで以上に望まれてくる。

本校では生徒に持たせたい力として次のように押さえた。

自ら問題を見つけ、追求する力

目標に向かって、最後までやり抜く力

豊かな感性を育む力

本校では「心豊かでたくましく生きる」ために知的側面である基礎学力と、その土台となる基本的な生活習慣の確立の両面のバランスを取りながら、進めていくこととなる。基礎学力の定着を図ることは「心の教育」の推進や生徒指導の充実を図る上でも重要であると考え。

2 研究主題設定の理由

本校の学校教育目標は、「21世紀をたくましく生きていくために学ぶ意欲が旺盛で、作業に一生懸命取り組む心豊かな生徒を育成する」である。これは、生徒のこれからの人生にわたって生きる力を育てていきたいということにほかならない。生きる力の源は、いろいろなことに挑戦していききたいという願いである。このような考え方をする生徒を育てるためには、子どもたち自身が自分の良さを知り、生き生きと意欲的に活動していききたいと思えるような授業を展開していかなければならない。本校の教育目標を達成するためにも本研究テーマに取り組むことは必要なことである。

また、意欲的に学習に取り組む基となる基本的な生活習慣の確立や、ねばり強く継続して学習していく姿勢を育むことも重要であり、両者は車の両輪としてバランスが取れることによって「確かな学力と豊かな心を持つ生徒の育成」が図られると考え、本研究主題を設定した。

3 研究主題の基本的な考え方

(1) 研究のねらい

本研究においては「確かな学力と豊かな心を持つ生徒の育成」を目指し、次の項目を研究の基本として実践的な研究を進めていく。

- 1 本研究は、個性豊かで自ら学ぶ意欲をもち、他者への思いやりの心を備えた生徒の育成を願うものである。同時に、専門職である教師の資質向上につながるものとする。
- 2 本研究は、生徒・学校及び地域の実態を把握し、教科及び道徳・特別活動・総合的な学習の時間の特性を充分尊重しながら、現在、及び将来にわたって着実に積み上げていくものとする。
- 3 本研究は、本校の教育目標の具現化を図るために、理論的な裏付けを重んじながら実践的に推進していくものとする。
- 4 本研究は、研究成果と反省を踏まえ、研究授業等、仮説検証の場を数多く設定したものである。

(2) 「確かな学力と豊かな心を持つ生徒の育成」について

研究を進めるにあたって、本校の生徒に身に付けさせたい学習面での基礎・基本と心の面での基礎・基本とに分け、次のように捉えた。

「学習面での基礎・基本」の充実を図ること。

学習の基礎・基本は自ら学ぶ力の基となるものである。

- ア 「考え方」を育成することは自ら学ぶ力の基となるものである。
- イ 「知識」を多く得ることによって、生かして考えることができる。
- ウ 「学習技能」を育てることは生かして使えることになる。
- エ 「追求する力」へ発展させることで自ら学ぶ力となる。

「心の面での基礎・基本」の充実を図ること。

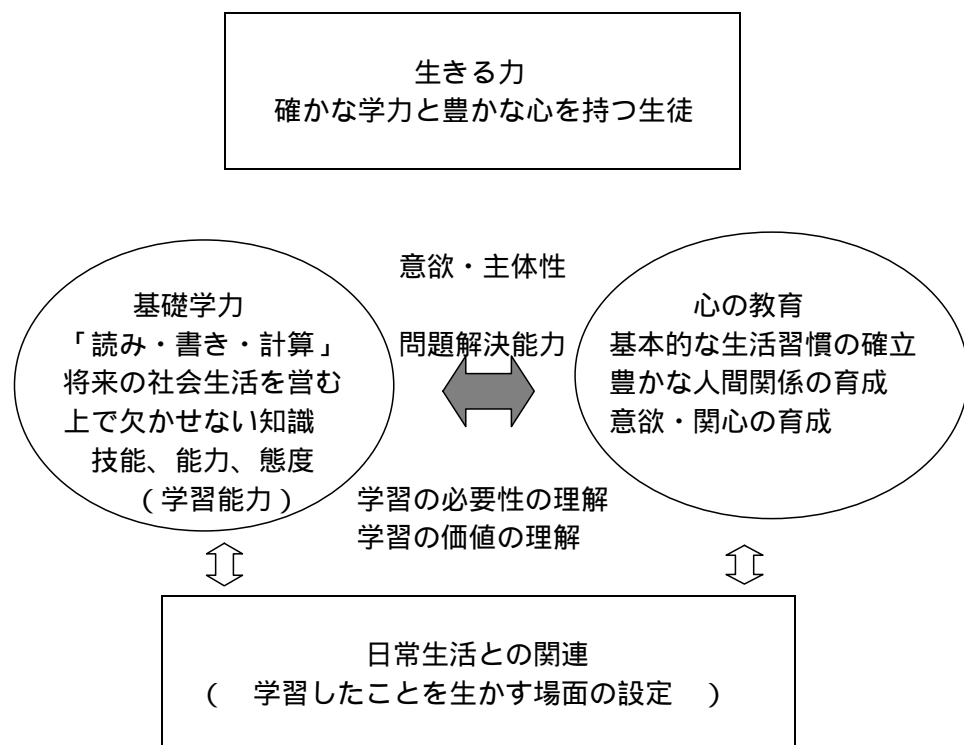
それは、人間らしく生きるために必要なことであり、当たり前のことが当たり前に行えることである。

- ア 「基本的な生活習慣」の育成である。
- イ 「豊かな人間関係」の育成である。

(3) 基礎学力の定着について

「基礎・基本」を次の3つの観点からとらえ、各教科の学習内容からその観点にそって「基礎・基本」を洗い出し、さまざまな指導法や評価の工夫に取り組んでいきたいと考える。

- 1 各教科の基礎的知識・技能としての「基礎・基本」
  - ア 読み、書き、計算
  - イ 記憶や習熟が必要な知識技能など
- 2 各教科の学習方法としての「基礎・基本」(学び方)
  - ア 問題解決の進め方(プロセス)
  - イ 問題解決を進めるうえで必要な学習技能(スキル)
- 3 社会を生き抜くための「基礎・基本」
  - ア 興味、関心、態度
  - イ 思考力、判断力、表現力



#### 4 研究の進め方

##### (1) 研究仮説

研究主題「確かな学力と豊かな心を持つ生徒の育成」に迫るために、次のような仮説を立てて研究を進めることにした。

仮説1 生徒一人一人の学力を的確に把握するとともに、指導方法を改善し繰り返し基礎的基本的な内容の定着を図るならば、自ら進んで学習する生徒を育成できるのではないか。

新たな事象や課題に出会った生徒は既存の知識・技能を基に課題の解決を図ろうとする。その際に必要な基礎学力を、先に挙げた3つの観点から各教科ごとに洗い出し、ドリルや演習などの「基礎・基本の定着」を図る学習を展開することを通して確かな理解を図ることが重要であると考え。新たな知識・技能を獲得する過程で、学習の必要性や学習の価値を理解し、更なる学習への意欲を喚起することとなるのである。その際、日常生活と関連を図り、学習に取り組む意識や姿勢の変容を図り、生涯学習の基礎としたい。

仮説2 学習に取り組む姿勢のもととなる基本的な生活習慣の確立を全職員の共通理解のもと共通実践を行えば、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力が育成できるのではないか。

基礎学力を身に付けるためには、基本的な生活習慣（学習習慣）を確立することが必要である。

宿題を出し、宅学習習慣を身につけさせたり、各教科の学習の手だてをまとめたガイダンスを配布し定着を図りたい。

また、中学生にとって教育課程外であるが部活動が毎日の生活のリズム確立に果たしている役割は大きく、練習を通して忍耐力や努力の大切さ成就感など多くの体験を学んでいる。各部の顧問が部活と勉学の両立を指導することによって、学年を越え、互いに高めあい、助け合って、学習に意欲的に取り組むことができると考える。

仮説3 学校・家庭が連携を図り、学習面や生活指導面でのきめ細かな小・中間での連携を進めていけば、継続した学習指導ができ、基礎学力の定着が図られるのではないか。

週休2日制の導入により家庭での学習の重要性はますます高まっており、より効果的な保護者との連携、協力が必要となってくる。

また、中学校でのつまずきの原因の多くは小学校の内容に始まることが多く、小中連携により、個に応じた指導を行えば、より充実した学習指導・生徒指導ができるのではないかと考える。

##### (2) 研究内容

研究仮説1から

- ア 標準学力検査による実態把握，分析と対策
- イ 基礎基本定着度調査の分析と対策
- ウ 個に応じた指導（少人数指導）
- エ 朝の読書活動の実施
- オ 選択教科におけるドリル学習，発展学習
- カ 諸研修会への参加と研究授業の実施
- キ 漢検，英検の実施

研究仮説2から

- ア 各教科でのガイダンスや学習の手引きの作成
- イ 学習訓練の実施（始業前着席，ノートを取り方等）
- ウ 学校生活オリエンテーションの実施
- エ 各部活顧問の学習指導的なかかわり
- オ 日記，宅習の提出

- 研究仮説 3 から
- ア 小中の連携
  - イ P T A 活動の充実
  - ウ 「学級通信」「学年だより」などを通じた情報発信

## 6 研究組織

班	仕事内容
研究班	研究、研修の全体計画の作成と調整、実態調査、資料の収集、研修の記録
実践班	授業研究の世話、授業研究の推進、指導法の改善、テーマの解明、授業分析、評価方法の研究

